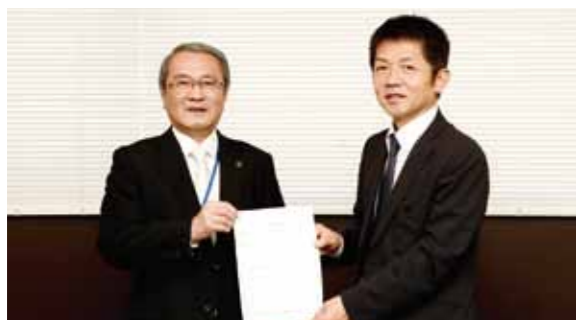


小林市が進める政策や
事業を紹介します

官民連携で地方創生

ANA 総合研究所職員が着任



4月2日、小林市の地方創生マネージャーとして、株式会社ANA（全日本空輸）総合研究所の東誠一さんが着任しました。霧島市出身の東さんは、着任にあたり「ふるさとに帰ってきたごたつです」と笑顔。観光振興や販路拡大など、移住・交流のためのシティセールスに取り組みます。

国際化の推進

東京五輪に向けて、ドイツとの交流事業を実施

市は、宮崎県・宮崎市・延岡市とともにドイツを相手国としたホストタウンに認定され、ドイツとの交流事業を進めています。ホストタウンとは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、相手国と地域とが交流することでグローバル化の推進を図るために、内閣官房オリパラ事務局が認定する自治体を指します。その一環で、

3月24日、25日にはドイツブンデスリーガ「マインツ」のコーチ陣を迎え、市内の中学生を対象にトレーニングを実施。4月16日には、ドイツ陸上連盟からソウル五輪銅メダリストでマラソンコーチのカトリン・ドーレ・ハイニヒ氏とマネージャーのジークフリート・ショーネルト氏が十三塚運動公園のクロスカントリーコースを視察しました。



④世界トップレベルの技術を学ぶ中学生ら。
⑤視察するドーレ・ハイニヒ氏とショーネルト氏。「とても状態のよいコースですね」と話していました。

官民連携で地方創生

東京海上日動火災保険と協定締結



市と東京海上日動火災保険(株)は、4月2日に「てなんど小林総合戦略」に関する包括連携協定を締結しました。総合戦略に掲げる「雇用を創る」、「人の流れを創る」、「若い世代の希望を叶える」、「安心な暮らしを守り、地域と地域を連携する」の4つの目標の実現に向けて連携を図るもの。具体的には同社の持つノウハウを生かした「各種観光施策の推進」や「防災力の向上」に向けた事業などに取り組んでいきます。

小林にゆかりのある「がんばる若者」を紹介！

第32代コスモスレディ

もりなが えり 森永 恵理さん(左) むらかわ まいこ 村川 舞衣子さん(右)

森永さんは、旅行やドラマイブといった趣味と日本舞踊を3歳から習うという一面のある28歳。「都会では味わえない大自然と、ゆったりとした時間を体験してもらえようPRしていきたい」と意気込みます。

新しい二人から小林市の魅力発信が始まります。

市の観光PRを担うコスモスレディ。第32代として任命されたのは、森永恵理さんと村川舞衣子さんです。

村川さんは、温泉が大好きな31歳。職場の上司に勧められてコスモスレディに応募しました。人前で話すことが少し不安と話すものの「森永さんと協力して、おいしい水やお肉をはじめ小林市の魅力をアピールしていきたい」という言葉から小林市への思いが伝わります。

小林市の魅力PRのために活躍
新コスモスレディが誕生



前任のコスモスレディからタスキを受け継ぐ村川さん。任期は来年の3月まで。

TOPICS

肥後正弘市長、前田喜輝副市長が退任

4月20日、2期8年間小林市長を務めた肥後市長と4年間副市長を務めた前田副市長の退任式を行いました。

肥後市長は平成22年の市長就任以来、「協働による持続可能なまちづくり」を掲げ、市民主体のまちづくりを進めてきました。式では、「皆さんに支えられて務めることができた8年間でした。現在、小林は地方創生を進める上で全国的にも最先端を進んでいます。この流れを将来につなげてほしい。そし

て、職員の皆さんには熱い思いをもってこれからも業務に取り組んでいただき、小林をさらに盛り上げてほしい。」とあいさつしました。

式典終了後、庁舎を出るときには多くの市民が見送りに。肥後市長は「ありがとう」、「お世話になりました」と一人一人に声をかけ握手をしながら進むと、集まった人たちからは「お疲れ様でした」「ありがとうございました」など感謝やねぎらいの言葉がかけられました。

